平成２４年度教育事業

おおずふれあいスクール

自然・社会・文化・スポーツ等の様々な体験活動や交流を通して、いくつもの出会いや挑戦、発見や感動がありました。その中で自分の進むべき道を選び、今年もたくさんの若者たちがこのスクールを旅立っていきました。

１　事業実施までの経緯

「おおずふれあいスクール」は今年の１月８日で、１６年目を迎えた。その間に、多くの不登校で悩む子どもたちの心に寄り添い、その心の居場所を提供すると共に、子どもたちの自立を支援し、その進路決定の援助をしてきた。さらに、平成１３年からは、対象者の枠を広げ、青年の社会的自立を支援する取組を進めてきた。

国立青少年教育振興機構では、平成２１年度に「機構活性化プラン」を策定し、平成２２年度より「課題を抱える子どもを対象としたプログラム開発事業」を本格的に開始している。開発事業の対象は、不登校、ひきこもり、ニート、特別支援、非行の子どもたちとなっており、国立大洲青少年交流の家としても、不登校の領域でこの事業に参画している。

現在、不登校児童・生徒及びひきこもりがちな青年は、大洲市や大洲市近隣にも多く、「おおずふれあいスクール」は、この地域になくてはならない存在となっている。大洲市教育委員会や県内の教育センター（適応指導教室）と綿密な連携・協力を図りながら、地域のニーズに基づく、施設の特色を生かしたプログラムを開発・実践することを目指している。

２　ね　ら　い

不登校生徒及びひきこもりがちな青少年に、居場所を提供し、国立大洲青少年交流の家のフィールド、人材、設備などを活用しての自然体験活動や社会体験活動をとおして、自立を促し社会への適応能力の向上を図る。

３　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

４　共　　催　大洲市教育委員会

５　後　　援　愛媛県教育委員会

６　期　　日　平成２４年４月１日（日）～平成２５年３月３１日（日）

７　場　　所　国立大洲青少年交流の家及び近隣施設

８　募 集 人 員　心理的・情緒的理由による不登校児童・生徒
１６才～２２才までのひきこもりがちな青年　　１５名程度

９　支　援　者　大洲市教育委員会職員２名、国立大洲青少年交流の家職員３名

10　日　　程

月～木曜日とし、金曜日は学校チャレンジデーとする。休日は学校に準じる。

＜ 日 課 表 ＞

9:00　10:00　12:00　13:30　15:30

月・火・水	ス タ ッ フ	自 主 活 動	昼 食	集 団 活 動
木	ミーティング	（ 学 習 ）		専 門 委 員 と の 活 動

○　上記日課表を基準としているが、行事等で柔軟に活動を展開できるようにしている。

○　集団活動は他人との接し方、人間関係づくりを重視し、多様な活動を展開する。

○　金曜日の学校チャレンジデーは、可能ならば学校への登校を促す。

○　火曜日の午後（年16回）、英語指導助手の指導により英語学習を実施する。

11　支 援 体 制

○　運営委員会、専門委員会を組織し、活動支援を行う。

大洲市教育委員会教育長、市内中学校・高等学校長、小学校養護教諭、愛媛県教育委員会、臨床心理士、八幡浜保健所、愛媛県若年者就職支援センター、大洲青年会議所、青少年交流の家所長、主任企画指導専門職、計１１名で運営委員会を構成した。

また、１４名の大洲市内小・中・高等学校教員、スクールカウンセラーによって専門委員会を組織し、４名グループに分かれ、月に２回程度スクール生の活動を直接支援した。

○「親の会夜のつどい」「思春期親の会」「ふれあい学習会」で保護者同士、保護者とスクールの連携を図る。

○　関連事業として、専門家による講演会や研修会を開催する。

12　活 動 内 容

地域との連携や本所の人的・物的資源の特長を活かし、社会参加を進めている。中でも職場体験活動やボランティア活動への積極的な関わりを重視している。 活動プログラムについては、時間設定などの大枠だけをつくり、具体的な活動は青少年の意欲・意思を最大限尊重し、のびのびと活動し居場所が実感できるよう配慮している。また、多くの活動を企画し、興味と関心に応じて自らが選択できるように 以下７つの活動で支援している。

(1)　自主活動　　(2)　生活体験活動　　(3)　自然体験活動　　(4)　ボランティア活動

(5)　職場体験活動　　(6)　文化活動　　(7)　スポーツ活動

【主な活動の様子】

「交流の家のプログラムを活用した体験活動」

今年度も、青少年交流の家の活動プログラムを積極的に取り入れて活動した。シーカヤックは、青空の下、自然を肌で感じることができた、肱川でのカヌーやテニス、書道等を体験し、「何事にも挑戦することで新しい世界が開ける」という感覚を実体験としてもつことができた。

「農園作業と収穫感謝祭」

年間を通して、大洲市の体験農園を利用して野菜づくりを行った。種まきからはじまり、定期的な除草や手入れをしながら心を込めて栽培した。春の収穫祭では野外炊飯場を活用し、スクール生全員で協力しながらカレーパーティーを開催した。秋にはスクールの調理室で、炊き込みご飯や豚汁、ポテトのスイーツづくりに挑戦し、秋の味覚をおいしくいただいた。野菜の収穫の感動と植物を育てる大変さを感じた農園作業であった。

「いきいき野外体験ｉｎ夜須高原」

今年のいきいき野外体験は九州の夜須高原青少年自然の家を拠点に、日本の歴史や産業についての学習を実施した。大宰府天満宮、九州国立博物館、吉野ヶ里遺跡では、日本の歴史に触れ、「むら・くに」の成り立ち等を学ぶことができた。また、大塚製薬佐賀工場、新日鐵住金大分製鉄所では、それぞれの分野で日本の高いシェアを誇る企業の理念、技術を知ることができた。２泊３日の集団生活を通して、連帯と協調、規律と責任の大切さを学び、新しい自分を探すことができた。

「青少年交流の家フェスティバルへの出店」

秋の青少年交流の家フェスティバルでは、毎年おおずふれあいスクールのブースを設置し、ボランティア活動として子どもたちに折り紙クラフトの指導を行っている。子どもたちに折り紙クラフトを指導したり、自主活動の時間にこつこつ作っていた小物類（本のしおりや髪留め等）を販売したりした。その収益で卒業を控えた仲間たちとのお楽しみ会を自主運営で開催するなど、大変有意義な活動へ発展していった。

「自己発見ワークショップ」「おおずまつり～お祭り村準備～」

ジョブカフェ愛ワークの大内由美氏を講師に自己発見ワークショップを３回実施した。１回目は「ジョブカフェ愛ｗｏｒｋを見学しよう！！」というテーマで松山市の若年者就労支援センターを見学した。求人票から、求められている人材や必要な技能などを読み取り、就労に向けての知識を得ることができた。２回目は、おおずふれあいスクールの運営委員でもある徳山氏の協力を得て、大洲市近隣で働いている３人のゲストを招き、自分の仕事について「その仕事に就くまでの道のり」「その仕事のやりがい」について直接、体験談を聞くことができた。実社会で働く先輩方の実体験に触れる機会をもつことで、将来の仕事に対する意識の高まりが感じられた。３回目は、「ストレスとうまくつきあう方法」として、ストレスマネジメントのワークを行った。心と体をリラックスさせることで、過度なストレスを和らげられることが分かった。また、ストレス解消法を発表し合うことで、自分にもできそうな解消法を見つけることができた。

自己発見ワークショップでつながりのできた大洲青年会議所の紹介で、今年もおおずまつりのお祭り村の準備に参加した。お祭りに来た子どもたちが楽しめるよう、イベントブースの設置に参加した。地域に貢献できる喜びを実感することで、自分に自信をつけた。

「ふれあいワークキャンプ」

心温まるみかん生産者とのかかわりやみかん摘み体験等の職場体験を通して自分なりの職業観を養うこと、また、ひたむきに仕事と向き合ったり仲間とともに働いたりする時間を十分に確保することで、連帯感や充実感を味わわせることをねらいに実施している。昨年度から県内のひきこもりがちな中学生にも参加を呼びかけ、体験場所を大洲市長浜町出海に移し、摘みとり体験、手作業での選果、袋掛けなど、みかん生産に関する一連の流れを押さえた職場体験活動となっている。大洲青少年交流の家に宿泊し、朝食と夕食はすべて自炊しながら共同生活を送ることで、自分なりの職業観や自立への力を育んだ。

12　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：80.0%　　＊やや満足：20.0%　　＊やや不満：0.0%　　＊ 不満：0.0%

○　野外体験活動は、とても勉強になり、楽しかったです。

○　ワークキャンプでは、みかん摘みやお菓子工場見学など、仕事の大切さ、大変さがよく分かりました。いろんな友達と出会うことができ、人間的にも成長できたと思います。
○　いろいろな体験ができてので、これからの生活に生かしていきたいです。
○　ワークキャンプでは、みんなと協力して、食事作りができました。時間に余裕を持って行動することが大切だと分かりました。
○　実際にいろいろな職業の方から話を聞いて、仕事に対する思いを知ることができました。

13　成果と課題

大洲市教育委員会との共催事業「おおずふれあいスクール」は１６年目を迎え、不登校児童・生徒、青年の心の居場所として地域に定着している。今年度は、１７名（仮登録含む）が登録し、ふれあいルームや野外の活動で元気な姿を見せた。

交流の家に泊まりながら、みかん農家で２泊３日の就労体験を行う「ふれあいワークキャンプ」や、大洲青年会議所、若年者就職支援センター協力のもと、地元で働く先輩方の実体験を直接聞く「自己発見ワークショップ」を昨年に引き続き開催できた。自分なりの職業観や自立への力を育んだ参加者は、就職や進学、学校復帰というそれぞれの目標に向けて、着実な歩みを進めている。また、親の会（夜の集い）は、子どもの現状や将来についての不安を本音で語り合い、情報を共有、相談できる場として、毎回１０名程度が参加し有意義な時間となっている。これからも継続が望まれる活動の一つである。

スクール生には常時６～８名が通所しているが、小学生から青年までと年齢層が広い上に個性が強く、人間関係のトラブルも多かった。相談員の手が足りず、義務教育生への学習支援や進路指導、青年への就労支援の両面には、対応できていない部分がある。スクール生の発達段階に応じたルールづくりやスタッフの指導・支援体制を、今後も検討していく必要がある。

資料１『運営委員会・専門員委員会集計』

【運営・専門委員１３名より回答（設問により未回答あり）】(専)…専門委員　(運)…運営委員

１　この事業のねらいは適切でしたか。

４　適切だった　【11】　　**３　どちらかというと適切だった【2】**
２　どちらかというと適切ではなかった　　**１　適切ではなかった**

理由:（専）不登校児童・生徒及びひきこもりがちな青年の居場所の提供として、十分役割を果たしていた。
（専）活動を通していろいろな経験ができるだけでなく、人とのつながりが深まっているように思いました。
（専）生き生きと活動する様子がうかがえ、よい活動になっていたと思います。
（専）体験活動の積み重ねの中で、自立（自律）に向けての意欲や生きる力が育まれてきていると思います。

２　ねらいに沿った適切な活動がなされていましたか。

（開催時期、時間設定、参加者のニーズ、所の特性を生かした内容等）

４　なされていた　【6】　　３　どちらかというとなされていた　【6】

２　どちらかというとなされていなかった【1】　１　なされていなかった

理由：（専）参加者のニーズにあったかというのは、よく分からないが、企画した活動を意欲的に取り組むことができた。

（運）スクール生の特徴や季節をとらえた活動が年間通じてされていたと思います。

（専）通所する子どもたちが変動するので、参加者のニーズをつかむことが難しいと感じている。通所生の様子や要望を、今後も紹介していってほしい。

３　全行程を通して健康・安全面への配慮はなされていたと思いますか。

（活動場所の施設・設備、参加者への健康・安全管理、スタッフの健康・安全管理等）

４　なされていた　【7】　　３　どちらかというとなされていた　【4】

２　どちらかというとなされていなかった　　１　なされていなかった

理由：（専）スタッフの先生方が、通所生のメンタル面を含めた状況把握を的確にしていただいていたので、その情報を受け対応することができたと思う。

（運）いつも適切にご準備いただき、専門委員も楽しく活動できました。

４　運営に必要な準備ができていたと思いますか。

（外部との事前打ち合わせ、道具・材料、活動場所等）

４　できていた　【7】　　３　どちらかというとできていた　【5】

２　どちらかというとできていなかった　　１　できていなかった

理由：（専）担当の教師と連絡を取り合い、必要な準備を行ってきた。

５　組織は合理的になっており、機能していたと思いますか。

（委員会、スタッフ・職員打ち合わせ等）

４　機能していた　【9】　　３　どちらかというと機能していた　【4】

２　どちらかというと機能していなかった　　１　機能していなかった

理由：（専）専門委員会の中で情報を共有し、協働することができていた。

（専）定期的な委員会の開催で、共通理解や情報交換が行われている。

６　スタッフは、参加者（スクール生、保護者等）とのコミュニケーションがとれていたと思いますか。

４　とれていた　【10】　　３　どちらかというととれていた　【2】

２　どちらかというととれていなかった　　１　とれていなかった

理由：（専）少ない回数の中で、できるだけコミュニケーションをとるようにした。

（専）外部の人（専門委員）と交流するという点においては意味のある活動となっている。

（運）スクール生一人ひとりに細やかな配慮をされていました。

（専）保護者のことは分からないが、スタッフの方とは何でも話しやすい雰囲気ができていると感じました。

7　参加者（スクール生、保護者等）に満足してもらえたと思いますか。

4　満足してもらえた　【6】　　**3　どちらかというと満足してもらえた　【6】**

2　どちらかというと満足してもらえなかった　1　満足してもらえなかった

理由:（専）それなりに満足してもらえたら嬉しいです。

（専）様々な状況のスクール生が多数いる中、それぞれに細かく対応されていまし た。

（専）感想や満足度をリサーチしてはいないが、楽しそうに活動に参加していた。

8　ねらいは達成できたと思いますか。

4　達成できた　【5】　　**3　どちらかというと達成できた　【7】**

2　どちらかというと達成できなかった　　**1　達成できなかった**

理由:（専）様々な自然体験活動や社会体験活動に参加することで、多くのことを学んだと思う。

（専）環境に恵まれた施設なので、居場所の提供はもとより、様々な自然体験活動や社会体験活動に参加することで、豊かな体験ができ、様々なことを学ぶ機会を得ている。

9　参加者（スクール生、保護者等）を予定通り集めることができたと思いますか。

4　できた　【2】　　**3　どちらかというとできた　【6】**

2　どちらかというとできなかった　【1】　　**1　できなかった**

理由:（専）不登校（傾向）児童生徒、ひきこもりがちな青年の人数からすれば参加者は限定されていると思う。

10　予定通りに運営できたと思いますか。

4　できた　【7】　　**3　どちらかというとできた　【3】**

2　どちらかというとできなかった　　**1　できなかった**

理由:（専）スタッフや職員の方々により計画的に運営されていると思う。

（専）スタッフや職員の方々の働きにより計画的に運営されていると思う。

11　その他、何でも気づいたことをお書きください。

（専）ひきこもりがちな青年を、いつごろ、どのタイミングで社会に出そうとしているか（計画しているのか教えていただきたい。

（専）毎日、通所生とかかわっていただいている、ふれあいスクールの先生方には深く感謝いたしています。生徒の送迎をご好意でしていただいておりますが、かなり負担をおかけしているようで心苦しく思います。来年度からは、同意書を書いてもらう際に「送迎は保護者で行う」ということを伝えておいてもらったらどうでしょう。

（専）一年間大変お世話になりました。ほんのわずかですが、ふれあいスクールのスタッフの皆さんがされている毎日の努力の手助けになればと思っています。ありがとうございました。

（運）スクールの存在は周知されており、小中学校やその保護者の理解は得られていると思います。スタッフのスキルアップへの取組（研修）は充実しているでしょうか。

資料２『平成２４年度おおずふれあいスクール生の受入及び復帰状況』

資料Ⅱ 「平成24年度おおずふれあいスクール生の受入れ及び復帰状況」

	小学生	中1	中2	中3	高1	高2	高3	青年	総計
登録者数	4	0	0	5	3	2	1	2	17
復帰	0	0	0	2 高校進学	0	0	0	0	2
ほぼ復帰	0	0	0	2 高校進学	0	0	0	0	2
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
毎日通所	0	0	0	0	0	0	1	1 ※計画通所	2
時々通所	4 ※ssw3名	0	0	1	2	2	0	1	10
通所なし	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小計	4	0	0	5	3	2	1	2	17
総計	4	0	0	5	3	2	1	2	17

※　SSWの3名は、スクールソーシャルワーカーと行事のみ参加
※　計画通所は日を決めて月に2～3回通所